

金融マンは対話で世界を変える



熱金

熱い金融マン協会

第53回

ZOOMオンライン

# 対話研究会

2025年7月16日（水）19:30～21:30

課題図書「世界標準の1on1」

著 スティーヴン・G・ロゲルバーグ

訳 本多明生

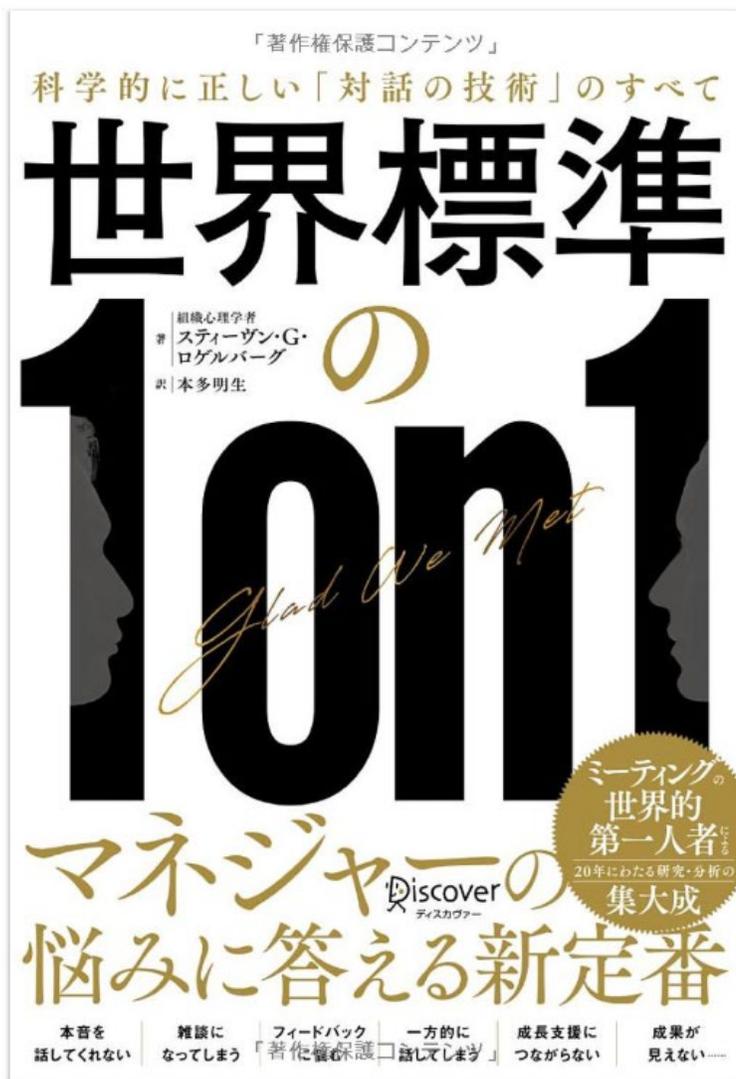
【参加申込】<https://taiwaken53.peatix.com/>



事務局：金融経営研究所  
madoguchi@kinken.biz

参加費 無料

- ①本研究会はボランティアで運営しています。
- ②運営へのご協力をお願いします。



# 勉強会の目的と運営

- ①目的：対話の理論とノウハウを吸収する。  
（金融機関内部、金融機関と顧客、金融機関と当局との対話のあり方？）
- ②**読書会（原則）**：課題図書の要旨説明（持ち回り）と対話。
- ③日程：**毎月第3水曜日**の19：30～（ZOOMオンライン）
- ④参加条件：**課題図書をチラッと**はみってくる。運営に協力。
- ⑤運営方法：参加無料。**全員ボランティア**。FBで毎回記録を作る。
- ⑥要旨説明者：**持ち回り**。毎回最後に次回の要旨説明者等を決めます

## 事務連絡

- ①**録画**します（全体のみ。個別対話は録画しません）。
- ②**記録への協力**のお願い
  - ・研究会終了時に感想等をFB記録ページに。
- ③**本日の資料**は対話研究会のHPに掲載

# お約束

1. 他の人の話は、この場以外では秘密にしよう
2. 心に浮かんだことを声に出そう  
(かっこ悪くてOK。意見を合わせなくてOK)
3. 異なる意見を受け止めよう

# 本日の次第

1. 事務連絡＋解説
2. 要旨説明（山口省蔵）
3. 感想・対話
4. 事務連絡

# 「世界標準の1on1」 目次

<b>第1部</b>	1 on 1 の <b>準備</b>	第9章	部下の個人的ニーズを満たす
第1章	1 on 1 を行う理由と意味	第10章	1 on 1 の進め方
第2章	1 on 1 の導入を伝える	第11章	1 on 1 で部下がやること
第3章	1 on 1 の頻度・ペース	<b>第3部</b>	1 on 1 の <b>終了後</b>
第4章	1 on 1 のスケジュールを組む	第12章	1 on 1 終了後にやること
第5章	1 on 1 の場所を選ぶ	第13章	1 on 1 を評価する
第6章	質問を準備する	<b>第4部</b>	1 on 1 を <b>組織文化にする</b>
第7章	アジェンダの作り方	第14章	部下の部下との1 on 1
<b>第2部</b>	1 on 1 の <b>実践</b>	第15章	ミーティングの時間対効果の高め方
第8章	1 on 1 実践の <b>基本</b>	第16章	1 on 1 と <b>組織の価値観</b>

## 1on1とは、

マネージャーと直属の部下との間で定期的に繰り返し行われる、

部下の

健康状態、モチベーション、生産性、対処すべき問題、優先事項、役割分担の明確化、他の業務との調整、目標設定、他者・チームとの調整、個人の成長、キャリアプランなど

について対話する時間・機会

# 第1部1on1の準備

第1章	1on1を行う理由と意味	<1on1が重要な理由> エンゲージメント、部下の成功、マネージャーの成功、人間関係の構築、D&I、部下の成長・能力開発 <1on1のスキル評価>
第2章	1on1の導入を伝える	導入する時によくある質問と回答
第3章	1on1の頻度・ペース	1on1の最適なペース？→週1回がベスト
第4章	1on1のスケジュールを組む	まとめた方がいい。小休憩を入れる。
第5章	1on1の場所を選ぶ	部屋の適性。ウォーキング・ミーティング。リモート
第6章	質問を準備する	<6つのカテゴリー> ①人間関係の構築、②エンゲージメントの維持、③状況把握、④課題、⑤フィードバック、⑥能力開発・成長・キャリア
第7章	アジェンダの作り方	<誰がアジェンダを作るのか> <冒頭事項>近況、前回の1on1、部下への感謝 <作成方法>自分と部下でリスト作成 VS 主要質問を明示 <進捗報告の罠に落ちない> <毎回評価指標を追わない>

## 第2部1on1の実践

第8章	1 on 1 実践の <b>基本</b>	<b>50～90%は部下が話す</b> 。自分が話すのをがまんする。 部下の実務的なニーズ（構造づくり行動）と個人的なニーズ（配慮行動）。メモを取る。部下にフィードバックを求める。
第9章	部下の <b>個人的ニーズを満たす</b>	1. 傾聴し、共感を持って対話する 2. 誠実に、隠し事をせず本音で話す（フィードバック） 3. 適切に部下の意見を取入れ、意思決定に参加させる 4. 親身になってサポートする 5. 適度に自分の弱さをみせる
第10章	1 on 1 の <b>進め方</b>	<準備と開始> ポジティブな期待を持つ <本題> 1. 表現する。2. 明確化し、深く理解する。3. 問題解決に取り組む。 4. 実行計画を策定する。5. モニタリング <終了> ポジティブに締めくくる
第11章	1 on 1 で <b>部下がやること</b>	<10の行動> 1 自分のニーズを把握する。2 好奇心を持つ。3 信頼関係を築く。4 積極的に1on1に参加する。5 コミュニケーションを上手にとる。6 不完全でいいので解決策を用意する。7 他の人に助けを求める。8 フィードバック（フォワード）を求める。9 フィードバックを上手に受け止める。10 感謝を伝える <部下からマネージャーへのフィードバック>

## 第3部1on1の終了後

第12章	1 on 1 終了後にやること	約束はどうして破られるのか？ ＜明瞭性の欠如に対処する＞→メモを取って共有 ＜個人的・状況的な問題に対処する＞ ①目標達成パートナーをみつける、②約束を果たすための時間をスケジュールに組み込む、③モチベーションが不足しても少しずつ行動する。日課の質問。ステークホルダーへの報告。 ＜フォローアップする＞
第13章	1 on 1 を評価する	1on1は成功しているのでしょうか？ ＜過大評価のバイアスに注意する＞ ＜部下による1on1の評価＞目標は部下にとって価値のあるもの にすること ＜1on1の長期的評価＞チームのエンゲージメント、業績

## 第4部 1on1を組織文化にする

<p>第14章</p>	<p><b>部下の部下との1on1</b></p>	<p>&lt;目的&gt; ①現状把握、②信頼関係の構築、③アイデアに関するフィードバックの入手、④情報・アドバイスの共有          &lt;実施の仕方&gt;          1 部下に告知する→2 部下の部下に告知する→3 スケジュールを作成する→4 アジェンダを作成する→5 ラポールを築く→6 効果的な対話を行う→7 部下の部下をほめる→8 フォローアップする          &lt;問題の発生を避ける&gt; マネジメントは部下がする</p>
<p>第15章</p>	<p><b>ミーティングの時間対効果の高め方</b></p>	<p>&lt;ミーティングで無駄な時間を減らす方法&gt;          &lt;よりよいミーティングとは何か&gt;          &lt;ミーティング前&gt;、&lt;ミーティング中&gt;、&lt;ミーティング後&gt;          &lt;ミーティングの時間対効果を高める組織的戦略&gt;</p>
<p>第16章</p>	<p><b>1on1と組織の価値観</b></p>	<p>(リーダーに共通する価値観) → 体現するための仕組みが1on1          (企業の価値観) → 基軸になるものが1on1          「1on1はリーダーとしての義務」</p>

**疑問・感想？**

**どの章が心に残りましたか？**

**うまくいった1on1の記憶？**

**1on1をやってみよう！**

**最近気になっていること？**

**今日の1on1で役に立ったことは何ですか？**

**今日の1on1で反省点がありますか？**

金融IT協会、FDUA、Fintech協会、熱い金融マン協会、FinGATE共催

# 「私の金融人生曲線」

第30回 熱い金融ウーマン&マンセミナー

2025年 **7**月**23**日（水） 18:00～19:30 **リアル+オンライン**  
場所：**FinGATE KAYABA**

熱い金融ウーマン  
**河合祐子**さん  
(高知銀行頭取内定)



熱い金融メンズ

沖田貴史さん (Fintech協会)   岡田拓郎さん (FDUA & FITA)   山口省蔵さん (FITA & 熱金)



セミナー後リアル会場  
では懇親会を予定



地銀初の女性頭取に内定した熱い金融ウーマン河合祐子さんをお招きして、熱い金融メンズと共に人生曲線を語ります。



【参加申込】 <https://atsukin30.peatix.com>

事務局：金融経営研究所、金融IT協会 <staff@fita.or.jp>

第54回

ZOOMオンライン

# 対話研究会

2025年8月20日（水）19:30～21:30

課題図書 「開かれた対話と未来」

著者 ヤーコ・セイックラ+トム・アーンキル  
監訳 斎藤環

【参加申込】 <https://taiwaken54.peatix.com/>



事務局：金融経営研究所  
madoguchi@kinken.biz

参加費 無料

- ①本研究会はボランティアで運営しています。
- ②運営へのご協力をお願いします。



オープンダイアログ  
これが決定版!

フィンランドの創始者ふたりによるガイド、待望の翻訳!

医学書院 \ 懇切の日本語版解説25頁! /



Jaakko Seikkula Tom Erik Arnkil

以上です

ありがとうございました。

本資料に関する照会は、以下までお願いします。

株式会社金融経営研究所

山口省蔵

〒1510051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-30-9Kビル

メアド：shozo@kinken.biz

電話：0353856216



<https://atsukin.kinken.biz/>

**熱金**  
熱い金融マン協会